

1 閉経後女性の複雑性膀胱炎に漢方薬が有用であった3例

奈良県総合医療センター 泌尿器科¹⁾、
奈良県立医科大学 泌尿器科²⁾

鳥本 一匡¹⁾、後藤 大輔²⁾、藤本 清秀²⁾

【目的】閉経後の高齢女性には、慢性的に膿尿を認め、頻尿や排尿痛、肉眼的血尿などの症候を繰り返す患者が少なからず存在する。尿路や全身に基礎疾患が存在し、それらを除去できれば治癒するが、特定できない、あるいは除去できないことが多い。閉経後の再発性細菌性膀胱炎に対する治療として感染症治療ガイドラインにはエビデンスに基づいた抗菌薬選択が記載されているが、これらは発症を抑えることはできず対症療法に準じるものである。複雑性膀胱炎の発症防止を目的とした五淋散が奏効した3例について報告する。

【症例1】88歳。33歳時に子宮全摘出術と外照射を受けた。α遮断薬服用下で残尿はない。五淋散により、肉眼的血尿と発熱の発症頻度は年1回未満となった。

【症例2】80歳。56歳時に子宮卵巣摘出術を受けた。ベーチェット病に対してプレドニゾロンを服用している。膀胱炎症状は抗菌薬に抵抗性であったが、五淋散により軽症化し発症頻度も低くなった。

【症例3】77歳。膀胱頂部に開口部が大きい憩室がある。五淋散により肉眼的血尿と排尿痛の発症頻度が低くなった。

【考察】この3例は、尿沈渣で白血球 ≥ 50 個/hpfであるが、普段は軽微以下の症状しかない。また、下肢の冷えや胃腸症状は訴えない。冷えが強ければ猪苓湯合四物湯や八味地黄丸、胃腸が虚弱であれば清心蓮子飲の適応であった。

【結語】高齢女性における慢性的な複雑性膀胱炎に対して五淋散を投与し、発症および抗菌薬使用の頻度を低減できた。